委員会報告

研究委員会　委員長　山岡 テイ

研究委員会は、子どもや家族、園生活を巡るさまざまな領域の研究会を年２回開催。９月 19 日予定の Zoom 研究会は、NPO 法人 Safe Kids 理事長・山中龍宏先生による「子どもの事故や怪我を防ぐには」です。

園や学校の先生がた、国内や海外の幼児教育の研究者、役所や施設、病院の臨床現場で活動中の広い範囲の専門家の方々から直接にお話を伺う機会を得ています。今後も、皆様からのテーマへのご要望ご参加をお待ちしています。

〈連絡先〉iaecestudy@gmail.com

機関誌編集委員会　委員長　上田 敏丈

機関誌第 28 号へは多くの論文が投稿されました。ありがとうございました。年々、投稿数が増えており、また個々の論文の質も上がってきているのではないかと感じております。

また、2020 年度には、J-stage への登録も無事完了しました。現在、25 号から 27 号がオープンアクセスとなっております。引き続き、過去の号も登録していく予定としております。ご活用下さい。

情報委員会　委員長　荻原 明信

現在，学会 Web ページについて，２つの取り組みを行っています。１つは，会報のバックナンバーの掲載です。これは近々実現できます。もう一つは Web ページの多言語化です。現在，学会 Web ページには英文ページがありますが十分なものではありません。また，中国や韓国との関係がありますから，これらの言語のページも必要です。こちらは少し時間がかかるかもしれませんが，現在準備を進めています。

〈連絡先〉ogiwara@sakushin-u.ac.jp

渉外委員会　委員長　劉 郷英　森 貞美

渉外委員会では、国際幼児教育学会の活動を海外に発信するとともに、海外会員との緊密な交流のための活動を行っています。COVID-19 の感染拡大によって、お互いの国を訪問し交流を行うことが制限されている中で、第 42 回大会は Web によるリモート開催となり、海外副会長の斎藤法子先生、周念麗先生、鄭錦子先生の協力を得て、海外会員のご参加が期待されています。また、大会シンポジウムでは、海外から斉藤法子先生、八谷美幸先生、李妍承先生、周念麗先生、山本一晴先生がご登壇くださり、アメリカ、韓国、中国、タイの「幼児教育のニューノーマル」についてご報告くださる予定です。（文責：森貞美）

支部報告

九州・沖縄・山口支部　椎山 克己

支部総会
・日時：６月 27 日（日）時間は未定
・場所：久留米信愛短期大学を予定
　現時点では対面で実施予定です。ただしコロナの状況によってリモートに変更することもあります。支部会員には後日、詳細が決定次第、郵送にて連絡いたします。総会にてその後の活動内容を検討します。

支部研究会
・日時：６月 27 日（日）支部総会終了後
　支部会員の研究交流を図ることを目的として行います。発表希望を４～５月に募り、内容を決定いたします。

とちぎ支部　山崎 久子

とちぎ支部では３回の研究会を開催しました。久野高志氏（作新学院大学女子短期大学部）から明治、大正、昭和時代の国立国会図書館デジタルコレクションにみる子どもの遊びの研究紹介が、荻原志美氏（宇都宮大学まなびの森保育園・元中学校教頭）から中学生の自尊感情 や人間関係形成力の実態を通し、生涯にわたる人間形成 の基礎が培われる幼児期の保育について提言が、金崎友香氏（あさひの保育園）から「近年の中国都市部の 0~3 歳 児保育・教育の動向と課題について」の研究発表があり、質疑応答や議論が交わされました。

今後は実践報告等を含め、研究交流を図っていく予定です。

会員の方からの原稿を募集しています

1）海外の幼児教育の現状の紹介
2）日本語で読める海外の幼児教育著書の紹介
※ 字数 500 字程度（Word MS 明朝 10.5）

所属を明記の上、下記アドレスまでご応募ください。
今後の会報に使わせていただきます。

岡本 礼子：okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

発　行　人：中坪 史典
企画編集人：岡本 礼子　岡本 千春
　　岩手 萌子　津島 ひかる
発　行　所：国際幼児教育学会 事務局
〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1
神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育科
E-mail：iaece.office@gmail.com
www.iaece.org

所属先、住所等が変更された方は、事務局へのご連絡をお願い致します。
所属先の変更届けがないまま、ジャーナル等の送付をした場合、
着払いで戻されるケースも発生しておりますので、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

IAECE 2021 News Letter

International Association of Early Childhood Education

国際幼児教育学会
会報 72 号

2021.4.1
http://www.iaece.org

P.1　巻頭言　周 念麗
P.2　2021 年度第 42 回大会案内 中坪 史典
　絵本部会 松本 由美／即興・演劇 直井 玲子
　／アート保育 岡本 礼子
P.3　松原達哉先生を偲ぶ
　金崎 芙美子／齋藤法子／鄭 錦子
　山田 千明／岡村 弘／木村 敬子
P.7　学会賞・学術賞 受賞者報告
　世界の幼児教育
　タイ国の幼児教育や環境について 山本一晴
P.8　委員会報告
　研究委員会 山岡 テイ／編集委員会 上田 敏丈
　情報委員会 荻原 明信／渉外委員会 森 貞美
　支部活動報告
　とちぎ支部 山崎 久子
　九州・沖縄・山口支部　椎山 克己
　事務局より

幼児教育のニューノーマル構築の考え ー目標と内容に基づく視点

海外副会長 華東師範大学　周 念麗

全世界を震撼させた COVID-19 は、雷の勢いで世界を席巻しています。今回の COVID-19 は 224 万人の命を奪って、１億も超えた人口をこの病気 に罹患させました。全世界で人類の生存、生命と生活システムについて新たな考えさせられ、それと伴い幼児教育のニューノーマルを求めなければなら ないでしょうと思い、次の思考を述べます。

教育目標の更新で幼児教育のニューノーマルを構築

幼児に「認知を学び、するのを学び、共同生活を学び、生存を学ぶ」という 四つの柱を身につけさせべきます。1995 年には、国際 21 世紀教育委員会 がユネスコに提出した「教育――財産が隠されている」報告書に「認知を学 び、することを学び、共同生活を学び、生存を学ぶ」という「四つの柱」の教育 理念を提出しました。この「四つの柱」は世界各国の幼児教育の中では真新 しい概念ではないですが、COVID-19 に侵入される大流行の前に、幼児に いろいろな知識を身につけることをもっと重視されていました。幼児が COVID-19 に大きな試練を与えられ、ウイルスが大きく伝播するなどの大変 困難な状況で、どうやってうまく生きられますか ？ 家族や保育施設の仲間と よりよく共同生活をするすることができるかと拷問されています。

この絶えず変化する世界環境の中で、幼児には「四つの柱」をマスター させるべきだと考えており、これは COVID-19 に対処する効果的だとすでに 証明されました。

教育内容の拡充で幼児教育のニューノーマルを構築

教育は生活の中にある、日常な生活でやり遂げる教育は生活教育に なります。イギリスの教育者スペンサーは、教育の主な目的は生活を充実さ せるための準備であると考えていました。彼は知識の生活の中の重要性を 並べ、一番前に並んでいるのは直接に自分のいのちを保つ知識です。COVID-19 が世界を席巻する前に、幼児教育は教育を生活に浸透させる実 践もありますが、COVID-19 が発生した後、まえの幼児教育が幼児に生活知 識を獲得させる上での備蓄不足を暴露されました。COVID-19 に命を脅かし た時、人々は命を守ることの大切さを意識させられました。生命教育は幼児 教育の重要な内容となり、生命と安全、健康の知識も COVID-19 に大きな影 響される教育の重点になると思っています。

幼児教育の目標を更新し、幼児教育の内容を拡充して幼児教育のニュー ノーマルをすることによって、幼児が確実に仕事を学び、生活を学び、生存を学び、さらに生命の花が咲かせることができると信じています。

予告 WEB開催

2021 年度 国際幼児教育学会第 42 回大会

中坪 史典
国際幼児教育学会会長
第 42 回大会実行委員長

国際幼児教育学会第 42 回大会は、Web によるリモートにて開催します。
大会テーマは「世界の幼児教育 のニューノーマル」です。

1 日目 (2021 年 9 月 25 日) は、日本、米国、中国、韓国、タイの就学前施設を対象に、従来の幼児教 育を問い直し、新たな価値を創造するような実践事例を紹介してもらい、参加者と相互に対話することで、新常態下における幼児教育を展望するための機会を創出します。

2 日目 (2021 年 9 月 26 日) は、絵本、アート保育、演劇を中心に、実践者向けのワークショップを開 催します。もちろん、国籍を問わず、研究者の方、学生の方など、どなたの参加も大歓迎です。日本語が分 からなくても楽しくワークショップに参加できるような内容で構成します。

研究発表 (2021 年 9 月 25 日〜10 月 8 日) では、日本語、英語、中国語の三つの部会のもと、発表者 が Web 上に発表要旨を掲載し、参加者がそれに質問や意見を書き込む形式で対話します。2 週間の期間を 設定しており、参加者と十分なやりとりができます。本学会だからこそ可能な、多様な国々の研究者や実 践者と議論する場を提供します。

以上を通して、異なる背景をもつ発表者や参加者が、それぞれの視点から幼児教育を考える機会にしたいと考えています。微力ではありますが、実り多き大会となるよう、大会実行委員一同、協力して準備を進めてまいります。
皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

2021 9/25（土）

世界の幼児教育のニューノーマル

コロナ禍における日本、米国、中国、韓国、タイの幼児教育のニューノーマルについて、それぞれの 実践紹介と理論解説を通して、参加者とやりとりします。

9/26（日）

ワークショップ

絵本、アート保育、演劇・表現を中心にワークショップを開催します。
言語に関係なく、どの国の方でも参 加できます。

9/25（土）〜10/8（金）

研究発表と討論

研究発表と討論の場です。日本語、英語、中国語の部会を設けます。
2 週間設定されているため、参 加者と十分なやりとりができます。
筆頭発表者は、本学会会員に限りますが、連名発表者は、非会委 員でも発表可能です。

9/26（日）開催予定　ワークショップ

〈 絵　本 〉

グローバリズムを育む絵本

絵本の楽しさ奥深さを味わいながら、明日すぐに使える絵本もご紹介する企画です。みなさまふる ってご来場ください。
近年様々な表現可能性を追求し多様化する絵本は、実は「世界の安寧」に向かって収斂しています。絵本部会 は、絵本で多文化共生することを願った創設の思いを「絵本部会通信」(HP 掲載) やワークショップなどに結実 してきました。世界の絵本と安寧を共に考える仲間大歓迎。絵本部会にようこそ！

絵本部会事務局
玉川大学教育学部 松本 由美
ymat@lb.tamagawa.ac.jp

〈アート保育〉

アートと過ごす子どもたち

「アート」って何？「アート」は生活の中から生まれるのです。生活の中にある○△□、お皿のカタチ、机のカタチ、椅子のカタチ。我々が生活する世界は、「色、カタチ、素材」で出来上がっています。生活の中で「色、カタチ、素材」を意識して遊ばせることで、美しいと感じる心を育て、色やカタチを並べるバランスを学んでいきます。ワークショップの中で、周囲にあるものを準備して参加してもらい、色やカタチ素材に変化を加え、意識して並べることで美しい空間や画面を作り出すことを伝えたいと思います。日々の生活に「アート」意識する保育をしてみませんか？

アート保育　岡本 礼子

〈演劇・表現〉

即興は楽しい！　保育における インプロ（即興演劇）のすすめ

インプロとは、脚本や設定や役など何も決まっていない中で、その場で出てきたアイディアを皆で受け入 れ合い、ふくらませながら、物語をつくって演じていく即興演劇のことです。今回のワークショップでは、日英中の言語の壁を越えて、オンラインでできるインプロゲームを楽しみながら、参加者同士が知り合い、お話づくりや即興の演劇にチャレンジしていきます。また、保育の中で子どもたちと遊べる内容もご紹介してきますので、ぜひ、お気軽にご参加ください。

Zoom のカメラとマイクを ON にして、
おしゃべりができる環境から参加してください

演劇・表現　直井 玲子

松原達哉先生を偲ぶ

松原達哉先生、ありがとうございました

国際幼児教育学会第3代会長 金崎 芙美子
(国際幼児教育学会名誉会長)

昨年の 10 月半ばごろ、学会の会員の方からインターネット「日本 K-ABC アセスメント学会」のページに松原達哉先生の訃報が掲載されているとの連絡を受け、驚いてしまいました。早速、その事実をご長女の慶さんに確認したところ、詳しくお話を聞くことができました。

松原先生は令和 2 年 8 月 9 日、享年 90 歳でお亡くなりになられましたが、直接の死因は硬膜下血腫 というお話でした。新型コロナ感染症が蔓延しているためにご家族の皆さまはガラス越しに最後をみ とられたということでしたが、葬儀は家族だけで行い、後日お別れ会を行いたいとのことでした。そ の際には、ご連絡をいただけることになっておりますので、会員の皆さまには必ずお知らせします。初代会長村山貞雄先生とご一緒に国際幼児教育学会を設立され、1991 年から 2015 年までの 24 年間、第二代会長として学会の発展に尽力された松原名誉会長に深い哀悼の意を表したいと思っておりま す。実は、松原先生が会長になられてからの 24 年間、私は事務局長としてお傍でお仕えしてまいり ました。その間の思い出は尽きるものではありません。国内各地での大会や韓国、中国、米国など海 外での大会や研究会、若き研究者を育てたいと多額の寄付をされてつくられた学術賞のこと。さらに、国際幼児教育学会が日本学術会議に登録され、先生が第 19 期日本学術会議会員に選出されたとき、共に喜び合ったことも忘れられません。会議の後には、近くのお店によって雑談をすることも多かっ たのですが、その時には、先立たれた美しく控えめな奥様との出会いや日々の生活のようすなどを誇 らしく話されていました。

一方、岩波書店から「子宮がん・卵巣がんと告げられた時」を出版された 長女の慶さんについても、新聞等に記事が載るたびに必ず切り抜きを見せてくださったり、奥様に代 わっておいしいお弁当やお食事を作ってくれることを、うれしそうに話されていらっしゃいました。先生には、もう一人お嬢様がいて、同じ心理学の道に進んでくれたことを喜んでいらっしゃいました。先生の暖かで、円満なお人柄、そして、多くの著書を残すことができたのも、素晴らしいご家庭あっ てのことと改めて思っております。国際幼児教育学会も、拠点を関西に移し、第 4 代中坪史典会長の もと、さらなる発展をしていることをご報告し、生前のご指導と学会発展のためにご尽力くださいま した先生に心から感謝申し上げるしだいでございます。おやさしい奥様のおそばで安らかにお眠りください。いろいろとありがとうございました。

松原先生を囲んで左から山田千明、金崎芙美子、周念麗中国副会長

Our Memory ...

Memories of Dr. Matsubara

By Noriko Saito

I met Dr. Matsubara in 1981 for the first time when I was working towards my dissertation at the University of Southern California (USC). It was the investigation of the Piagetian cognitive process among two language speakers and one language speakers. My research was conducted both in the United States and in Japan among four comparison groups. In Japanese cohorts (subjects), I decided to contact the Ochanomizu University, and that is when I had the pleasure of meeting Dr. Matsubara. I was told that he was the authority of Piagetian theory in Japan. I was able to complete my quasi-experimental studies with the support of Dr. Matsubara in Japan. After the completion of my Ph.D., he invited me to speak at Tsukuba University where he was a professor at the time and additionally, to speak at the third Early Childhood Education International (ECEI) conference in Yatsugatake, Nagano. The ECEI was a smaller scale of the organization than it is now. Everyone stayed at different pensions in Nagano. We continued our discussion informally with exchanging our views on child development as we were enjoying wine in the evening in the beautiful woods of Yatsugatake.

I have known him for over 39 years and he has been my life-long mentor. Dr. Matsubara has an amazing mind, a prolific writer, always inquisitive, an outstanding listener, excellent researcher, and most of all a very generous donor and a kind person. He was always writing and took notes by hand. Later in his professional life, he moved from Child Development to the Psychology-Counseling fields of study. He became an outstanding advisor and counselor for his students and friends. I do not know how many books he wrote in his life; however, every year I saw him, he gave me one or two of his new publications. He was such an amazing and dedicated writer!

I visited Dr. Matsubara after he moved to an old age home in Tokyo and found him to be still steadfast in his writing.

I respect and admire his brilliant, inquisitive, creative and curious mind! He is a true scholar! There is one humorous, unforgettable memory of Dr. Matsubara. He mentioned about the incident every time we met.

Once we had the ECEI (visiting other countries) conference at the University of Southern California (USC) in Los Angeles. It was during an unusually, extremely hot summer. After the city tour, Dr. Matsubara took a cold shower, and he apparently felt a very fast heartbeat. He called me at home to take him to the emergency hospital. It takes about 40 minutes by a car from my home to USC. So I took my convertible with one of my three dogs named Tora (see picture). The reason why I took feared looking Tora, was because USC is located in an unsafe-location of Los Angeles. Tora is a 135 pound (61kg) black Bull-Mastiff. I rushed Dr. Matsubara to the Cedar Sinai Hospital-which is famous where many movie stars are treated, and Tora rode in the back seat and Dr. Matsubara in the front seat. I was driving as fast as 70 miles per hour (112.6 km) on the freeway to check him into emergency at the hospital quickly. Later Dr. Matsubara told me that he felt he was so afraid of Tora and also the speed of driving, he thought he might have the worst heart attack on his way to the hospital. The second was the price of hospital in the United States. One day stay in the hospital cost him 25 thousand dollars (約二百五十万円). His cardiologist suggested him staying in Los Angeles one week to watch his recovery before he flies back to Tokyo. That would cost him another 175 thousand dollars (約一千七百五十万円)! He said he might have another heart attack due to the expense of the hospital fee! Fortunately, he stayed only one day in the hospital, and the very kind Japanese nurse offered to care Dr. Matsubara at her home for one week without cost. He shared this unforgettable and frightening, but hilarious experience every time we met. We laughed it off! Next several times he visited Los Angeles, he always made sure to purchase the travel health Insurance and never take a cold shower when it is a hot day!

He is greatly missed by everyone, because he is not only a brilliant scholar, but also a gentleman, a good listener, extremely kind personality, and very generous person. Certainly, I miss his genuine smile and voice, and conversing about good old days that we had.

松原達哉先生を偲ぶ

松原達哉先生を追慕して

韓國大邱大学校 名誉教授 鄭 錦子

松原達哉先生とのご縁を語るには、長い歳月をさかのぼり、過去へタイムスリップしなければなりません。私は 1988 年に筑波大学で博士学位を取得しましたが、その留学時代に、筑波大学の心理学系教授でいらっしゃった松原先生に初めてお目にかかりました。

その後、韓国へ帰国して大邱大学校で学生指導と研究生活を送っていましたが、韓国の教育部が主管する海外派遣教授プロジェクトで、1993 年から 1994 年まで再び筑波大学で一年間研究する機会が与えられました。筑波大学に研究員として訪れていた当時、松原先生は国際幼児教育学会の会長を務めておられ、機会があれば一緒に学会活動をしようと仰ってくださいました。

そして、韓国に戻って忙しい日々を過ごしていた 1996 年に、松原先生から連絡をいただき、東京の立正大学で開かれた国際幼児教育学会第 17 回大会でシンポジストとして発表を行いました。それがきっかけとなり、その後、ほぼ毎年、国際幼児教育学会の大会に出席して、様々な学術活動に参加する機会をいただきました。

その活動内容をすべて列挙することはできませんが、私自身の研究発表だけでなく、韓国の多くの研究者との交流も進めてきました。また、当時、私が会長を務めていた韓国の中央幼児教育学会（現：韓国嬰幼児教員教育学会）と共同で、1999 年 10 月 29 日～30 日に韓国中央大学校において国際幼児教育学会第 20 回大会を開催することができました。

松原先生との個人的な交流の一つとして忘れられないのは、先生のご著書『子どもを伸ばす「なぜ」の聞き方・答え方 ―6 歳までの創造性教育法』を翻訳して、韓国で出版（1997 年）したことです。そして、松原先生から、毎年、ご丁寧な年賀状を送っていただいたことも思い出として心に残っています。

私は、国際幼児教育学会の学術大会に参加して、松原先生をはじめ、会長および役員の先生方、会員の方々と一緒に交流することで、多くの研究の刺激を受け、様々な経験をすることができました。このような機会を与えてくださった松原先生に心から感謝いたします。

松原達哉先生、今、世界は COVID-19 に翻弄されていますが、そのようなことがない平和に満ちた天国で、楽しく美しい出来事に囲まれてお過ごしになられますようお祈り申し上げます。どうか安らかにおやすみくださいますように。

感謝をこめて

山田 千明 (共栄大学)

「人間は生涯発達する、いや亡くなってからも発達する。」松原先生の米寿のお祝いの会で先生がおっしゃったこのお言葉が私の頭の中を駆け巡っています。

松原先生との出会いは、1976年春、大学１次科目であった教育心理学を私が受講したときでした。松原先生は人間学類の先生、私 は比較文化学類の学生でしたが、邦楽部の顧問の先生と部長との関 係もあり、「陸の孤島」と呼ばれていた開学当初の筑波大学で大変 お世話になりました。大学卒業後数年の社会人経験を経て、専門的に教育心理学を学びたくなり松原先生の研究室の門をたたきまし た。大きなおなかを抱えての大学院受験。研究生だった私のおなか の中で長女は松原先生のご講義を聴き、研究会に参加したものです。修士課程在学中には、子連れ学生の私を温かくご指導くださり、また、娘を本当にかわいがってくださいました。修士修了後の米国 滞在中にも論文指導をはじめ、細やかなご配慮をいただくなど、帰 国後の博士課程編入学の道筋をつけてくださいました。松原先生は 学生を大事に育ててくださるので指導を請う学類生や院生の数は 飛び抜けて多く、また、松原先生と一緒に海外調査に行かれた先生から「松原先生は馴染みのない外国料理でもおいしいおいしいとい って召し上がるので、海外でも大歓迎される」と伺ったことがあり ます。

国際幼児教育学会に入会させていただいたとき、本学会のもつ和気藹々した温さは、なんといっても会長の松原先生のお人柄によるものだと感じたものです。松原先生から教えを受けた者は、悲しみを乗り越え、先生がお播きくださった国際幼児教育学発展の種を大切に育て、お姿はなくともこれからも松原先生が「発達」なさる、そのようにあるよう努めねばと思います。本当にありがとうございました。

Our Memory ...

松原達哉先生を偲ぶ

岡村 弘（ 東京福祉大学 ）

松原達哉先生の訃報に接し、深い驚きと悲しみでいっぱいです。

先生と初めて出会ったのは、1992 年 11 月に横浜で開催された第 13 回大会でした。当時勤務していた久留米信愛女学院短期大学に学会から大会の案内の手紙が届き、国際という名前に興味をもって、しかし英語の苦手な私は大きな不安も持ちながら参加しました。

東京福祉大学大学院棟前で横浜の健康福祉センターだったかと思いますが、会長の松原先生が日本語であいさつされていたのでほっとしたのを覚えています。国際色豊かな顔ぶれの先生方が講演やシンポジウムをされたので、これぞまさに国際幼児教育学会と感動しました。感極まって、厚かましくも松原先生のもとに行って、九州でもこんな素敵な大会を開いていただけたらとお願いしましたところ、初対面にもかかわらず逆に喜んでいただき、「再来年にお願いしたい。」と握手していただいた温かい手の温もりは今でも忘れられません。大学に帰って学長に報告したところ、GO サインを出してくれましたので大学を上げて第 15 回大会を行うことが出来ました。

その後も、SARS で急遽アメリカでの大会が中止に 2003 年の 24 回大会にも久留米で開催していただきました。おかげで、九州にも学会員が増え九州・沖縄・山口支部を作ることもできました。いずれも松原先生に積極的に応援していただいたおかげです。先生はしばしば九州で講演をされていて、ある時久留米の小料理屋で飲んだことがあるのですが、その時「僕は S ビールのある店を選んでいくんだ」とおっしゃったので、どうしてかと伺うと、お嬢さんのご主人が S ビールに勤めていらっしゃるということでした。先生は御家族も大切にされる温かい方だとつくづく思ったものでした。学会においては一人一人をとても大事にしてくださり、私が勤めています東京福祉大学の学長になられたときにも、先生方の意見をよく聞いていただき、みんなから慕われ愛されておられました。

決して激することなく温かく前向きの言葉で話しかけられる先生のお言葉をもう聞くことが出来なことはとても悲しいですが、国際幼児教育学会も金崎先生が後をしっかり受け継ぎ、本年度からは若い先生方が中心になってますます発展しているのを草葉の陰からきっと見守っていてくださっていると思います。

どうか安らかにお眠りください。

松原達哉先生を偲ぶ

木村 敬子（ 聖徳大学名誉教授 ）

松原達哉先生ご逝去の報に接し、国際幼児教育学会の体制を作り上げられ、幼児教育の様々な分野の研究者が活躍する場を作ることにご尽力くださった先生のお姿を拝見してきた者として、寂しい、の一言です。松原先生はこの学会の 1978 年発足の時の事務局長（ 会長は村山貞夫日本女子大学教授) でいらしたそうです。第 1 回大会は 1980 年、今年の 9 月開催の大会は第 42 回です。この感染症禍で昨年に引き続き Web 会議となることを、松原先生がご存命だったら、「集まれなくて残念だね ~」とおっしゃったことでしょう。でも困難の中でも学会の歴史がしっかりと続いて行くことを松原先生は笑顔で見守ってくださるに違いありません。

最初にお会いしたのは当時同僚だった次良丸睦子先生の研究室でした。第 25 回大会を聖徳大学で開催することになり次良丸大会実行委員長を松原先生が訪ねてこられたのでした。松原先生のご高名はつとに存じ上げていましたがお話するのは初めてのことで緊張したのを覚えています。おだやかで、しかし時にキリッと鋭い意見をおっしゃる先生のお話は印象的でした。大会は多くの同僚の助けを得て無事終了。それ以来、学会の仕事に深く携わることになりました。国際幼児教育学会には昔からの友人が何人もいらしたこともあって、それ以来ほぼ毎年大会出席を続けています。

理事会は、東京では立正大学、東京福祉大学、東京文化会館等々で開催してきました。松原先生・金崎芙美子先生の名コンビをトップに、事務局長をしていても安心して仕事を進めることができました。先生はいつも運営に信頼を寄せ、励ましてくださったことを思い出します。国内と海外 (上海、ハルビン、釜山、大邱、ハワイ島) の大会で、それぞれの土地の幼児教育に関心を持ち知識を深める機会も作っていただきました。ご恩を忘れることはできません。

2020 年度　学会賞・学術賞 受賞者報告

学会賞：宮地 敏子（ 児童文学者 ）

〈 選考理由 〉

優れた研究業績はもちろんのこと、国際幼児教育学会の発展に貢献された会員から、今回の学会賞は宮地敏子氏（児童文学者）選考されました。

宮地氏は、長年常任理事を務められ、絵本部会部会長としても学会の発展に貢献されました。

学術賞：中島 伸子（ 新潟大学 ）

〈 選考理由 〉

機関誌「国際幼児教育研究」に掲載された論文の中から優れた論文を投稿された著者から選考されます。学術賞は中島伸子氏（新潟大学）が選考されました。

中島氏は、「国際幼児教育研究」26 巻 p.01-10　2019 年に掲載された「身体的不調を訴える幼児とやりとりする際の養護教諭の配慮の特徴―養護教諭と幼稚園教諭を対象とした質問紙調査の比較分析から－」の論文が高い評価を受けたものです。

世界の幼児教育

タイ国の幼児教育や環境について

山本 一晴　Associe International Kindergarten Bangkok 35　統括部長

タイではこれまで私立小学校への入学に際して入試を課してきた (現在既に廃止) 歴史がある。試験対策として幼児教育段階で初等教育の学習内容を先取りするべく、また、私立小学校又はインター校への接続を見据え、タイの私立幼稚園は教育内容の見直しを加速度的に進めてきた。タイではケンブリッジ式インターナショナルスクールが主流であり、その数は 91 校にのぼる。日系幼稚園も例外ではなく、筆者が勤務する園では年長クラスで足し算引き算、ひらがな・カタカナ、英語の書き取り、そしてタイ文字の 3 言語学習を行っている。保護者に選ばれる園を目指せば、結局のところ教育の早期化・多様化へと帰結する。しかし、今実践されている幼児教育を早期教育と捉えるか又はタイの幼児教育の標準と捉えるかは保護者に委ねられている。